

平成31年度
広島県瀬戸内高等学校一般入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験 番号	
----------	--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人の目は、言ってみれば、モニターカメラのようなもの。自分の姿が客観的にどのように見えるのか。それを教えてくれるのが人の目だ。あの人からどう思われているんだろう。もつと仲良くなりたいんだけど、好意的に見てくれるかな。嫌われてたらショックだな。グループの仲間たちからどう思われているんだろう。最近個人的にちょっといろいろあって、つきあいが悪くなっちゃってたけど、大丈夫かな。

部活の仲間は、シンライ^aしてくれているだろうか。あまり I を割って話すこともないんだけど、この前の試合でミスをしてしまったし、足手まといだと思われてないだろうか。

そんなふうに、シジユウ^b人の目を気にしているものだ。人の目は気になって当然なのだ。

社会学者クローリーは、自己というのは社会的なかわりによって支えられており、それは他者の目に映ったものだから、「鏡映自己」と呼ぶことができるという。

自分の顔を直接見ることはできない。鏡に映すことで初めて見ることができ。鏡がなければ、自分がどんな顔をしているのかを知ることができない。

① それと同じで、他者の目という鏡に映し出されない限り、僕たちは自分の人柄や能力といった II な特徴を知ることができない。他者の反応によって、自分の人柄や能力がどのように評価されているかがわかり、自分の態度や発言が適切だったかどうかを知ることができる。

鏡映自己という言い方には、そんな意味が込められている。僕たちの自己は、他者の目を鏡として映し出されたものだというわけだ。自分を知るヒントとなる他者との比較の結果も、他者の目という鏡に映し出されていることが少なくない。その意味では、僕たちの自己が他者の目に映し出されたものだというのは正しいと言ってよいだろう。

《A》クローリーは、他者の目に自分がどのように映っているかを知ることによって、誇り^{ほこり}とか屈辱^{くつじやく}のような感情が生じるといっている。これは、だれもが日常的に経験していることだ。

人から好意的に見られていることがわかれば、とても嬉しい^{うれい}し、自信にもなる。能力や人柄を高く評価してくれていると知れば、誇らしい気持ちになる。反対に、否定的に見られていることがわかると、ガッカリして気持ちが落ち込み、自信がなくなる。

僕たちが、ともすると気の合う仲間同士、価値観や性格の合う者同士でまともがちなもの、周囲の人の目に映る自分の姿が肯定的なほど嬉しいし、力が湧いてくるからだ。^②自分の姿を輝かせてくれる鏡がほしい。それは、だれもが密かに望んでいることはずだ。

ただし、嬉しいとか、落ち込むとか、感情的に反応するだけでなく、どこが評価されたんだろう、どんな点がダメなんだろうと認知的に反応できる人は、たとえⅢ評価を受けていることがわかって、今後のカイゼンに活かすことができる。ここでいう認知的反応とは、感情的に反応するのではなく、頭で反応すること、論理的に反応することを指す。

その意味では、自分を輝かせてくれる鏡としての他者だけでなく、ときにみずほらしい自分やイヤな自分を映し出し出してくれる辛口の他者、価値観や性格の異なる他者とのつき合いも大切だ。そういう他者との出会いが、自分に対する気づきを与えてくれ、自分の成長のきっかけになることもある。

^③自己とは他者である。

この言葉から、どんなことをイメージするだろうか。

人から余計なお節介せちかいで鬱陶うとうしいアドバイスをされたりすると、「自分のことは自分がよく知っているから、ほっといてくれ」と言いたくなる。人にはこちらの気持ちなんかわからない。自分のことは自分にしかわからない。そう思うことがある。

でも、そう思って自分と向き合い、自分自身をとらえようとすると、これがけっこうくせ者だとわかる。どうもよくつかめない。人のことはよく見えるのに、自分のことがよく見えなかつたりするのだ。

近すぎてわからないのか、「なんであんなことを言ってしまったんだろう」「自分は、ほんとうはどうしたいんだろう」「なんでこんなにムシヤクシヤするんだろう」と、わからないことだらけ。そんなことになりがちだ。

そうしてみると、一番身近であるはずの自分が、じつはとても遠い存在なのかもしれない。そのような意味で、自己とは他者であるというのでないか。それも一理ある。

でも、ここではもうひとつの意味を考えてみたい。

^④だれでも自分についてのイメージをもっている。

「自分は何があつても前向きで、笑顔で頑張っているタイプの人間だ」という自己イメージをもっている人もいる。「自分は神経質で、慎重なのは良いかもしれないが、どうも細かなことにとらわれすぎる」という自己イメージをもつ人もいる。「自分は人の気持ちがよくわかるやさしい性格だ」という自己イメージをもつ人もいる。

では、そうした自己イメージは、どのようにしてつくられたのか。

生まれつきもっていたなどということはあり得ない話だ。赤ちゃんが、「自分は粘り強い性格だ」とか「自分はやさしい子だ」といった自己イメージをもっているなど、とても想像することはできない。自己イメージは、小さい頃からの経験の積み重ねによって、徐々につくられてきたものはずだ。

では、どんな経験が大きいのか。このように突き詰めていくと、自己とは他者であるということのもうひとつの意味が見えてくる。

周囲の大人から「いつも笑顔で明るい子ね」と言われたり、学校の先生から「君は頑張りやだな」と言われたり、友だちから「お前は何かあってもへこたれないな。その前向きな思考が羨ましいよ」と言われたりする経験が積み重ねられることで、「自分は何があっても前向きで、笑顔で頑張っているタイプの人間だ」といった自己イメージがつけられる。

親から「あなたはホントに神経質なんだから」と言われたり、先生から「慎重な性格なんだね」と言われたり、友だちから「細かいことにとらわれすぎじゃないのか」と言われたりする経験が積み重ねられることで、「自分は神経質で、慎重なのは良いかもしれないが、どうも細かなことにとらわれすぎる」という自己イメージがつけられる。

親から「〇〇ちゃんのお母さんがやさしい子だって言ってたよ」と言われたり、先生から「人の気持ちがよくわかるんだね」と言われたり、友だちから「いつもやさしくしてくれてありがとう」と言われたりする経験が積み重ねられることで、「自分は人の気持ちがよくわかるやさしい性格だ」という自己イメージがつけられる。

こうしてみると、僕たちの自己イメージはいろいろな他者がこちらに抱くイメージによってつけられていることがわかる。人から言われた言葉や人から示された態度をもとに自己イメージがつけられている。

《B》、僕たちが自分に対してもつイメージは、もともと他者がこちらに対して抱いていたイメージなのだ。そのような意味で、自己は他者であるということになるわけだ。

(榎本博明著『自分らしさ』って何だろう?)より

問一 ~~~~~ a ~ d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《A》・《B》に補うべき語として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア ところで イ つまり ウ たとえば エ あるいは オ さらに

問三 I にあてはまる体の一部を表す漢字を一字で書きなさい。

問四 II にあてはまる語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 外向的 イ 内面的 ウ 主観的 エ 抽象的

問五 III にあてはまる語を、文章中から三字で抜き出して書きなさい。

問六 ① 「それ」とは、何を指していますか。文章中から適当な一文を抜き出して、最初の五字を書きなさい。

問七 ② 「自分の姿を輝かせてくれる鏡がほしい。」とありますが、「自分の姿を輝かせてくれる鏡」とは、どのようなことをたとえた表現ですか。それを説明した次の文にあてはまる語句を、文章中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

*自分の【二十字以内】他者のこと。

問八 ③ 「自己とは他者である。」とありますが、ここではどのような意味ですか。その説明として最も適当なものを次のア～エ

の中から選び、その記号を書きなさい。

ア 日ごろから気の合う仲間と一緒にいれば、他者と自分の考え方が非常に似てくるという意味。

イ 自分の性格や能力は、他者の目を通さなければ本当に理解することはできないという意味。

ウ 自分が思っている「自分」と、他者から見えている「自分」は異なっているという意味。

エ 一番身近であるはずの自分のことなのに、実はよくわからない部分が多いという意味。

問九 ④ 「だれでも、自分についてのイメージをもっている。」とありますが、このようなイメージはどのようにしてできたと筆者は述べていますか。文章中から三十文字以内で抜き出して、最初と最後の五字を書きなさい。

問十 ⑤ 「自己とは他者であるということのもうひとつの意味」とありますが、この「もうひとつの意味」とはどのような意味ですか。それを説明した次の文にあてはまる語句を、文章中から二十五文字以内で抜き出して書きなさい。

*私たちが自分に対して持っている自己イメージは、【二十五文字以内】であるという意味。

【二】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

メールが来たとき、私はリビングで油性ペンを探していた。「そのへんにあるでしょう」と、洗い物に勤しむ母が面倒くさそうに言うけれど、少なくとも目に見える「そのへん」にはない。慌ただしくテレビの前を横切ると、ゲームをしていた中学生の弟から「姉ちゃん邪魔ー」と怒鳴られた。コードが裸足の指にからまりそうになって、また弟に怒鳴られる。(一)

あしたは卒業式だから、最後のホームルームで卒業アルバムが配られる。そうしたらきつと、クラスの女の子たちは寄せ書きをしあうだろう。卒業アルバムのつるつるのページはきつと、普段使っているようなペンではダメだ。あのぴかぴかな白にインクが弾かれないように、油性ペンを持っていかなくちゃ。私が多めに持って行って、クラスの女の子たちに貸せばいい。

いつまで経っても油性ペンが見つからないまままでいたときに、急に尚輝からメールがきた。

【あしたの朝、式が始まる三十分前、東棟の階段で待ち合わせ】

「待ち合わせ」って、なんかインチキ予言者みたい。尚輝はおおざっぱだから、メールの文字の打ち損じなんていつものことだ。本人は全然気にしていないのだろう。

尚輝からメールが来るなんて、本当に久しぶりだった。一年ぶりくらいかもしれない。絵文字も句点もないメールは、尚輝の声をそのまま文字にしたみたいだ。私は、【わかった。けど、久しぶりだねとかそういうの？】と返した。それから返事はない。それも、尚輝らしい。

水道から流れ出る水の音を聞きながら、私は、もう油性ペンを探すのをやめようと思った。自分の真面目さに嫌気がさす。寄せ書きをするときにペンが無かったら、誰か持っている人いない？ っ、って、大きな声で言えばいい。ああごめん貸して貸して、っ、って、他の女の子たちみたいに言えばいい。

だけど私はそんなことできない。いつも小さなことを気にして、目を凝らして、避けるべき障害物を探している。尚輝みたいに、ずっとメールをしていなかった友達にいきなりメールを送るなんてことも、私はできない。メールアドレスを変えられていたら、それを教えてもらえていなかったらって考えると、怖いからだ。(二)

だから、尚輝が高校を辞めてしまったとき、私は、やっぱり私と尚輝は別々の場所にいる人間なんだと思った。それは発見ではなく確認で、ずっとずっと前からわかっていたことだった。

家が近くて、幼稚園のころからずっと一緒だった。小さなころって、親同士の仲がいいと、子ども同士も絶対仲がよくなる。母親たちがファミレスでご飯を食べているとき、私と尚輝は外で四つ葉のクローバーを探し回って、見つけたとたん食べてみたり、ローラースケートにひもをつけて辺りを練り歩くという犬の散歩のまねごとをしたりして遊んでいた。そういう面白い遊びを思い付くのはいつだって尚輝で、私はいつもその後ろについて、それは危ないよとか、そのいたずらはやりすぎだよとか、遠慮がちにブレーキをかける役だった。(…III)

私は火曜日と木曜日が嫌いだった。ピアノのおけいこが火曜で、英会話の塾が木曜。尚輝は水曜日が大好きだった。通っているダンススクールで、一番大きなスタジオがキッズクラスにも開放される日。私は勉強が嫌いではなかったから、成績がよかった。尚輝は、勉強が嫌いだったのに、成績がよかった。私は尚輝の習い事の話聞くのが楽しくて好きだったけれど、自分の話はあまりしなかった。尚輝が身振り手振りを交えて話してくれるダンスのことより、ピアノと英会話を楽しく聞こえるように話せる自信がなかった。

尚輝は、他の男の子たちみたいに、女子をからかったり泣かせたりしなかった。文化祭や合唱コンクールで男女が分裂しそうになったときは、いつも尚輝がなんとなく仲をとりもっていた気がする。尚輝にはそういうパワーがあった。私はいつも男子の**カゲグチ**に泣いてしまうような女子だったから、私と尚輝が仲良しだということを不思議に思うクラスメイトは多かった。

周りの子たちに尚輝との関係を訊かれるたび、私はそう答えていた。

中学生になって、他の男の子たちが先生に反抗したり怖い先輩と仲良くなったり、無理やり悪くならうとする中で、尚輝だけは自然だった。それなのに、誰よりもカッコよく、素敵に見えた。私以外の女の子もみんな、そう思っていたはずだ。だから私はときどき、本当に身勝手な優越感に浸ることがあった。私は尚輝と幼稚園からずーっといっしょの幼馴染なんだよ。言葉にはしなかったけれど、心のどこかではいつもそう思っていた。

そして尚輝が特別だった理由はもうひとつある。当時の私はよくわかっていなかったが、尚輝は中学に入ってすぐ、どこかの芸能事務所に所属したようだった。田舎の小さな公立中学校にいと、ジムシヨという言葉の響きだけで、何か特別なオーラをまとっているように見えた。「今日シゴトがあるんだ」と、授業を早退することもたまにあった。それだけで、まだ少女だった私たちには、本当に尚輝が特別な存在に見えたのだ。

ジムシヨ。シゴト。そんな言葉を残して学校の門から出ていく尚輝の後ろ姿を見ては、すごいな、と思うのと同時に、私は少し怖くなった。

あの校門を駆け抜けたら、尚輝はもう、こんな田舎の中学校に二度と戻ってこないんじゃないか。私はいつもそんなことばかり考えていた。

尚輝はいつも、青いTシャツをカバンの中に入れていた。「これ、練習着なんだ」と、自分の体よりもはるかに大きなTシャツを大切にそうにたたんで、教室を出て行った。私は、その嬉しそうな横顔を隣で見ているのが好きだった。

ピアノも英会話も楽しくはなかったけれど、辞めることもできなかった。だから英語以外の教科を教わる塾に行ってみたり、吹奏楽部に入って違う楽器をやってみたり、中学では生徒会の副会長もしてみた。一方尚輝は、ダンスだけは絶対に続けていた。いつだって楽しそうにダンスの話をし、カッコいい曲に出会ったらイヤホンを片方貸してくれた。(iv)

同じ高校に進学することが決まったとき、私は正直驚いた。てっきり、尚輝は中学に入って勉強を全くしてないと思っていたからだ。受かっちゃった、と自分でも驚いたように言う尚輝は、あのころと何も変わっていないかった。

《私、何かが変わってしまふような予感がしていた。尚輝は今でも四つ葉のクローバーを見つけたら迷わず口に運ぶかもしれないし、ローラースケートがあればひもをつけて犬に見立てて散歩をしだすかもしれない。だけど、私の頭のカタスマ^dで、^⑦ずっとひそかに呼吸をしつづけている思いがあった。尚輝はいつか私を置いて、きっとどこか遠くへ行ってしまう、きっとそうだ、きっと。

(朝井リヨウ著『少女は卒業しない』より)

問一 ｛ a ｝ d のカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 —— A 「つるつるの」・B 「ぴかぴかな」に共通する品詞名として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 感動詞 イ 副詞 ウ 形容動詞 エ 連体詞

問三 次の文章は (i) ～ (iv) のどこに入れるのが適当だと考えられますか。最も適当な箇所を (i) ～ (iv) の中から選び、その記号を書きなさい。

* 私はいつだってそうだ。遅刻もできないし、忘れ物だって、テストで赤点をとることだって、授業をサボることだって、できない。しないんじゃない、できない。

問四 《 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア さすがに イ だけど ウ さらに エ もちろん

問五

に入る文として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 親同士が昔から仲良くって。

イ なぜか不思議と気が合って。

ウ 弟と尚輝が仲良くって。

エ 昔から尚輝に憧れてて。

問六

——①「メールの文字の打ち損じ」とありますが、メールの内容について尚輝が打ち損じた部分一字を抜き出し、正しい表現に一字で直して書きなさい。

問七

——②「尚輝らしい」とありますが、尚輝の性格が最も端的に表現されている部分を文章中から五字で抜き出して書きなさい。

問八

——③「別々の場所にいる人間」とありますが、私と尚輝が「別々の場所にいる人間」であることの具体例としてあてはまらないものを次のア～オの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 尚輝は勉強が嫌いではなかったから成績がよくて、私は勉強が嫌いではなかったから成績がよかったということ。

イ 尚輝はいつも面白い遊びを思い付くが、私は尚輝の後ろについて遠慮気味に意見しブレーキをかける役だったということ。

ウ 尚輝は自分の習い事について話をするのが得意だったが、私は自分の習い事について上手く話す自信がなかったということ。

エ 私は習い事を辞めるどころかあれもこれもと次々に習い事をやっていたが、尚輝はダンス一本に集中して続けていたということ。

オ 私は中学を卒業したあと高校に入学したが、勉強を全くしていなかった尚輝は中学のときから所属していた芸能事務所にそのまま入ってしまったということ。

問九

——④「優越感」の対義語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 悲壮感

イ 臨場感

ウ 孤独感

エ 劣等感

問十

——⑤「尚輝が特別だった理由はもうひとつある」とありますが、「尚輝が特別だった理由」を示したものを次のア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。

ア 尚輝が習い事のダンスの話を身振り手振りを交えて私たちに話してくれていたから。

イ 尚輝が他の男子と違ってクラスの男女の仲をいつもとりもってまとめてくれていたから。

ウ 尚輝が中学に入り芸能事務所所属したことで、それを理由に学校を早退していたから。

エ 尚輝が先生や先輩と仲良くなって、私たちの先頭に立ってなんでもやってくれていたから。

オ 尚輝が四つ葉のクローバーを見つけては食べるという面白い遊びをしていたから。

問十一

——⑥「私は少し怖くなった」とありますが、なぜ「怖くなった」のですか。その理由を文章中の言葉を使って三十字以内で説明しなさい。

問十二

——⑦「ずっとひそかに呼吸をしつづけている思い」とありますが、その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 私は尚輝とこれからも変わらない関係でいたいと願っているが、尚輝はいつか夢を追いかけるために私の手の届かない遠い所へ行ってしまうことをなんとなく感じている。

イ 私は尚輝とこれからも変わらない関係でいたいと願っているが、尚輝は親の仕事の関係で転校するため自分の思い通りにはいかないことがある程度は予測している。

ウ 私は幼馴染である尚輝のために卒業式当日にもかかわらず時間を作ったが、卒業アルバムの寄せ書きに使う油性ペンを忘れてきたことが気になっている。

エ 幼稚園からずっと一緒だったことで私は尚輝と仲良くなったが、クラスの中心的存在である尚輝とおとなしい私はそもそも縁のない関係であることを自覚している。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今昔、^{※1}震旦^①に則^{※2}天后と申す女帝^{※3}ましましけり。仏記^{※4}を受けて深く仏法を信じ、^{※5}広く衆生^{※6}にあはれぶ。

その時に、^{※7}義浄三蔵と申す聖人^{※8}ましましけり。法を求むる心深くして、^{※9}天竺に渡りて三十余国に遊行して、

本の震旦^{※10}に還り来り法をひろむ。しかるに、長安三年といふ年の十月の四日に、西明寺といふ寺にして、

金光明最勝王経を訳しおはりぬ。同十五日に同寺にして供養せり。

則天后、^③この事を貴びたまひて、百尺の幡二口、四十尺の幡二口、絹百疋、^{※11}香華・灯明等の供具を施したまふ。

皆、七宝を以て莊嚴せり。供養の時、^{※12}紫雲、寺におほひ、^{※13}経卷光を放つ。大地少し動き、天よりこまかなる花降る。

仏記を得ざるにあらずは、誰か五百歳の中にかくのごとき靈験を得むや。

しかれば、世こそりて、^{※14}義浄三蔵を帰依すること限りなし。また、^④則天后専らに崇めたまひけりとなむ語り伝へたとや。

※1 震旦―地名。

※2 仏記―仏の予言。

※3 聖人―知恵と人徳に優れ、皆が崇拜する人。

※4 法を求むる心―仏の説いた教え（の巻物）を求める心。

※5 金光明最勝王経―お経の一つ。

※6 紫雲―めでたい雲。

※7 帰依―優れた人にすがること。

（『日本霊異記』を一部改題）

問一 〰〰 a を現代かなづかいで書きなさい。

問二 〰〰 b の月の異名をひらがなで書きなさい。

問三 〰〰 ①「則天皇后」・②「義浄三蔵」とありますが、二人の人物の説明として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。

ア 仏の予言に不信心を抱き、予言から人々を守ろうとしている人。

イ 仏の教えを大切にし、さまざまな土地でその教えを求めに行った人。

ウ 仏教を深く信仰しており、多くの人々を大切にしている人。

エ ささまざまな国を旅行することを好み、仏教の知識を増やそうとしている人。

問四 〰〰 ③「この事を責びたまひて」とありますが、何を尊く感じられたのですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 義浄三蔵が天竺から持ち帰った仏の飾りを西明寺に寄付したこと。

イ 義浄三蔵がお経を訳し、それを西明寺に寄付したこと。

ウ 則天皇后が義浄三蔵と同じ日にお経を訳したこと。

エ 則天皇后が十月四日に西明寺で義浄三蔵に出会ったこと。

問五 〰〰 ④「則天皇后専らに崇めたまひけり」とありますが、「則天皇后」がこのような行動をとったのはなぜですか。その理由を文章中から三十五字以内で抜き出して、最初と最後の五字を書きなさい。